



みみたん通信

京都市手話学習会「みみずく」

本部機関紙部発行

会長 石神博行

事務局 FAX075-812-6112

みみたん通信 第65号

<http://www.mimizuku-kyoto.com/>

2025年 10月1日発行



第58回全国手話通訳問題研究会 ～サマーフォーラム in きょうと～

みみたん特集号

第58回全国手話通訳問題研究集会～サマーフォーラム in きょうと～が8月8日～10日の3日間、京都テルサで開催された。

連日40℃近い猛暑日が嘘のように35℃前後に、京都人たちは「涼しい」。しかし北海道からの参加者は「暑～い」。鹿児島からの参加者も「暑い、暑い」。8日の朝、線状降水帯発生により、飛行機は運休。仕方がないので鹿児島から新幹線に急遽変更、「えらい物入りや」という人も。宮崎から来られた人はどうだっただろう、無事に帰られたのだろうか。大変な豪雨で、被害も出ている。北陸や東北地方も線状降水帯が居座って大変な中、京都にやって来て、良い学習や交流が出来たのだろうか。

とにかく参加者の皆さん、大変な思いをしながら参加されたようです。要員や実行委員で参加した人たちの感想を書いてもらったので、参加できなかった講座や分科会の様子を紙上で楽しんでください。

閉会のあいさつで、河原雅浩副連盟会長は、手話のふる里での開催、良かったと言っておられた。

来年は静岡、ちびまる子ちゃんのふる里です。みなさんたくさん来てくださいと引き継いだ。



南支部 持田隆彦

目次

- | | |
|------------------------------|-----------------------------|
| 1・・・特別企画
サマーフォーラム in きょうと | 8・・・「第73回全国ろうあ者大会」
に参加して |
| 2・・・参加の感想 | 9・・・山科支部「合同研修会」 |
| 3・・・A講座・B講座報告 | 10・・・和鏡を作ろう |
| 4・・・C講座 I・II講座報告 | 11・・・学習交流部長あいさつ
鴨川納涼 |
| 5・・・C講座・第4分科会報告 | 12・・・行事予定／編集後記 |
| 6・・・茶会 | |
| 7・・・子ども企画・交流会 | |

～サマーフォーラム in きょうと～ 実行委員として参加して

今回のサマーフォーラム in きょうとは、2024 年から府聴障協と京通研で実行委員会を立ち上げ（2024 年 5 月～京手連も加わりました）、そして法人にも協力を頂き、4 団合計 50 名の実行委員で開催に向けて準備を進めました。

実行委員会は、府聴障協の吉田航会長が実行委員長、持田隆彦京通研会長と永濱治夫京手連会長が副実行委員長、そして他のメンバーは、事務局・会計、企画部・会場部・子ども部・飲食部・情報宣伝部に分かれました。私は「会場部」に所属し「要員調整やマニュアル作成など」を担当しました。要員は「今回の京都開催のサマーフォーラムを、みんなの力で盛り上げよう！」と、要員希望者を募ったところ 216 名の申し込みがあり、調整の結果 3 日間通して延べ 335 名（要員・通訳含む）の皆さんに各所でご協力いただきました。



私は当日、クロークの主担でしたので、多くの荷物を「混乱なく」「間違いなく」受け渡しする方法を「机を使って荷物を 2 段に置けるようにする」「荷札に番号の入ったものを準備する」などと工夫をした結果、延べ約 200 個の荷物をスムーズに受け渡すことが出来ました。

また、クロークの向かい側には C 講座（申込者 400 名超）受付があり、そこも担当しました。30 分間で受付終了する必要がありましたが、役割を「クーポン受け取り」「クーポン忘れた方の名簿チェック」「資料配布」に分けたことで、講義が始まるまでにスムーズに終わることが出来ました。

ご協力頂きました皆様、色々不手際があったと思いますが、ありがとうございました。
※略称について：府聴障協（京都府聴覚障害者協会）・京通研（京都手話通訳問題研究会）・京手連（京都府手話サークル連絡会）・法人（社会福祉法人 京都聴覚言語障害者福祉協会）

実行委員 右京支部 高瀬 るみ子

第 58 回全国手話通訳問題研究会集会～サマーフォーラム in きょうと～に参加して

私は初めての参加で楽しみにしていました。

1 日目は午後からで、オープニングに聖母学院中学校・高校のダンス部のダンスから始まりました。その後、開会式と特別報告が 2 つ、特別講演と記念講演がありました。

記念講演で精華大学マンガ学部教授による講演は面白かったです。マンガの登場人物の絵（背が高い、低い 太っている、やせている）をみただけで、性格等を想像してしまう、固定観念みたいなものがある話しには「なるほど」「その通りや」と思いました。

2 日目、3 日目に講座と分科会がありました。私は B 講座（入門）に申し込みをしていましたが、人数の関係で C 講座（人権・福祉）に参加することになりました。4 人の方の講演がありました。

最終日の講座の後は、子ども企画の発表や閉会式、引継ぎ式が行われ終了しました。

今回初めて参加して沢山の講師のお話を聞いて、知らないこともあり勉強になりました。また、販売ブースでは他府県の方とお喋りしながら商品を購入でき楽しかったです。

閉会式では、来年開催される静岡県の方が隣に座っておられてお話しすることもでき、とても有意義な 3 日間でした。

南支部 川合久美子

A 講座（体験学習）南コース



8月9日（土）、サマーフォーラムA講座・（体験学習）南コースの要員として参加しました。京都駅に8時45分に集合し、まずは全国手話研修センターを訪問。手話メイトの皆さんによるオリエンテーションの後、緑色のスカーフを身につけ、手話による観光ガイドの体験に出発しました。

嵐山では、渡月橋や天龍寺を手話で案内していただき「嵯峨」や「嵐山」など、地名の手話表現に触れることで、地域に根ざした表現の面白さや深さを実感することができました。手話メイトさんの丁寧な説明で、参加者は楽しみながら学ぶことができました。

昼食は全国手話研修センターに戻り、美味しく豪華なお弁当をいただきました。その後、手話関係の書籍を購入し午後の行程へ。

京福電鉄に乗って仁和寺を経由し、京都府立叢学校を訪問しました。現地では、学校の先生から創立の経緯や、古河太四郎先生に関する貴重な資料をご紹介いただき、ろう教育の歴史に触れることができました。また、現在の特色ある学科の様子についての説明もあり、参加者一同、熱心に聞き入っていました。



8月10日（日）は、北・南コース合同の講義が行われました。前半は京都手話通訳問題研究会 会長・持田隆彦氏による講義、後半は京都府聴覚言語障害センター 所長・今西和弘氏による講義があり、どちらも分かりやすく内容の濃いもので、全国からの参加者からは「京都は素晴らしい」との声が多く聞かれました。

今回のA講座を通して、京都におけるろう教育とその歴史の運動について深く学ぶことができ、大変有意義な体験となりました。

下京支部 一村説子

B 講座入門

B講座「入門」はろうあ運動や手話活動の歴史を学ぶ講座です。Ⅰ）全日本ろうあ連盟の石橋大吾理事長の講演。Ⅱ）全国手話通訳問題研究会（以下、全通研）の宮澤典子副会長の講演。Ⅲ）「京都の自治体手話通訳者の仕事から学ぶ」と題して、藺田日出雄氏（舞鶴市）、八木勝光氏（向日市）、荻野聖子氏（綾部市）、岩谷誠司氏（向日市）のパネルディスカッションがありました。

私は、Ⅳ）「手話この魅力あることばから学び合おう」を聞きました。全通研が発行している機関紙『手話通訳問題研究』に掲載しているコーナーについてです。聞こえない方にお話しいただいた生い立ちやさまざまな経験を写真と文章で紹介しています。「手話」「手話表現」も大切ですが、聞こえない方の暮らしから学ぶという視点を大切に編集されています。「手話この魅力あることば49」DVDの宮下富美子さん（京都）の辛い経験や、地域を変えていく活動について紹介がありました。「困った」で終わらせない彼女の強い意思と行動力に感銘を受けました。興味のある方は、ぜひDVDを買ってご視聴ください。

上京支部夜の部 渡辺久美



C講座 人権・福祉Ⅰ

現在、在住外国人が増加し様々な問題が起きている。阪神淡路大震災後「言葉が通じない」「情報が入らない」と困る外国人へのサポートが始まった。特に医療場面での通訳が求められ家族や知人など知識や経験のない人が臨時的に通訳を行っていた。

(事例1) 日本語が分からない母親が病院に行った。「言葉が分かる人を連れてきて欲しい」と言われ、自分よりは日本語が分かる子を病院に連れていき、子どもに通訳してもらった。その時子どもは「腫瘍」という言葉を「ガン」と通訳し、母親はショックのあまり自殺をした。

(事例2) 欧米人が脳梗塞で倒れ緊急搬送されたが「言葉が分からない」「未払いを懸念」たらいまわしにされている間に死亡。

医療通訳は家族や付き合いのある個人の善意だけで行えるものではない。

在住外国人の増加とともに医療や教育、行政などから通訳のニーズが高まり、2000年代に入ると自治体により医療通訳ボランティアを養成し派遣する制度がスタート。個人の善意で行っていたものから公的な制度へ変遷し、養成カリキュラムを導入し通訳者のレベルを一定にするための基準が設けられた。医療通訳に必要なものは十分な語学運用能力、一般知識・社会常識、通訳倫理、異文化間コミュニケーションの力、通訳技術、医療知識である。育成カリキュラムの中に実際に病院で実習を行い、通訳者と患者との関わり方も学んだり、臨床実習が行われるのは医療通訳が専門職としてあるからだろう。

音声での医療通訳は必ず逐次通訳で行い、ノートテイクもする。音声为重ならないようにすること、書くことで話を整理し医師へ「聞いてますよ」というアピールにもなるからだそうだ。

通訳者は待合室では同席せず必要以上の情報収集はしない。長く一緒にいると何か他のことも相談されることになる。事前情報は必要だが、診察前に通訳者に話してしまうと、いざ診察室に入った際にさっき話したからと通訳者任せになってしまうことも起こりうるからだそうだ。また、日本や中国は高コンテクスト文化なので少ない情報でも理解してもらえることもあるが、低コンテクスト文化圏の外国人の場合は共有情報が少ない故に喧嘩になることもある。手話通訳と共通する部分と音声通訳ならではの部分、お話を聞きながら自分を振り返る機会にもなり、興味深い講演であった。

中京支部屋の部 前田彩圭



C講座 人権・福祉Ⅱ

講師は中途障害者で、京都府障害者差別解消条例検討会議の女性当事者委員として2回目から任命された方でした。

母の実家で小児麻痺のある叔父さんと暮らし、脳性麻痺や足の悪い同級生と一緒に授業を受け差別意識もなく遊んでいた幼少期。結婚して出産した頃、障害への意識は何もなく「手足は5本そろっていますか」と医師に聞いた。五体満足であることへの安心感と私の中にある障害者への差別感情があったことが分かる。40代で転落による頸髄損傷から四肢麻痺になって、生まれて初めての絶望感と自殺願望と、他人からの評価に捉われて苦しい経験をされてきたとの事でした。

お話の中で、世界から見た日本のジェンダー（男女格差）指数が女性差別撤廃委員締約国148カ国中118位で先進国の中では最下位と聞き驚きました。

政治参画が低いのは、女性議員が少ないことが理由とのことでした。

障害のある人は生活上での選択肢は現在でも極めて限られていて、幼い頃から障害のある人は、障害のない人と分け隔てられてきていると講師の体験談もありました。

障害者という一括りの中に入れられて、人格を持つ一人の人間としての存在と認識されない。人としてではなく物として扱われ、性を持たない存在として認識され、女性であるということを否定された対応を受けている人がいることお話しにショックを受けました。

講師もおっしゃっていたが、次々に新たな条例や法令が施行することで本当困ることがなくなるのか？電話相談窓口があっても自分で電話ができない人は、補助者を付ける必要があるが、プライベートな問題に補助者を付けて相談するのはストレスになり相談できない人も多いとの事、私も同感です。

今回の講座で、まだまだたくさん問題があることが分かりました。「介助者の人手不足だから仕方ない」で終わってしまう話ではないと改めて人権について考えさせられました。

南支部 川合久美子



C講座 人権・福祉Ⅲ

「LGBTQのこと、そして人権 弁護士夫婦のカラフルデイズ」

南和行先生の講演は初めて聞かせていただきました。最初に南先生から「『LGBTQ』という言葉が知られても、まだ差別や偏見があり、ただ、誰が悪いと言うつもりはなく、考えるきっかけになれば。」とお話いただきました。昔と違って身近に感じることはできますが、自分自身が差別や偏見がないと言われると分かりません。講演の中でも『SOGIE』という言葉が出てきましたが、「皆それぞれ違いがあり、性の多様性があるただそれだけであって、それは当事者だけではなく、皆おんなじなんだと感ずることができました。皆、違いがあるからこそ、面白いですね。色々な事を考えるきっかけになり、とても勉強になりました。

中京支部夜の部 岸本真奈実



第4分科会

第4分科会は「地域でいきいきと暮らすために」をテーマに、7つのレポート報告がありました。聞こえない人の介護や看取り、仲間づくり、医療、防災、聞こえない子どもとその親へのサポートなど内容は様々でしたが、共通して語られていたのは、いかに地域を巻き込み、仲間をつくり、連携していくかという「つながる」ことの大切さ。そして、今回明らかになった課題を地域に持ち帰って、どう解決していくのか…、参加者それぞれに宿題が課せられました。

一つひとつの報告の後には質疑応答や意見交換の時間があり、活発な発言が続きました。そして、その中で、大きな問題提起もありました。

なぜサマーフォーラムにろう者の参加が少なくなっているのか？ なされている情報保障は本当に必要な人に届いているのか？ 取り残されている人がいることに無自覚ではなかったか？ このことも、サマーフォーラムに参加した私たちに課せられた宿題なのかもしれません。

北支部 福本ますみ

子ども企画

2泊3日のドキドキわくわくの宿泊企画。ろう・難聴児を含む13名の子ども達と、9名の大人スタッフが関わり、一緒に過ごしました。コロナ禍もあって、こういった宿泊が初めてというお子さんも。

京都国際マンガミュージアムで、お小遣いを握りしめて、「これはママに、これはパパに」と、離れた場所にいる家族を思い浮かべながら、お土産を選んでいる子どもの愛らしい姿、純粋な思いやりに心が温くなりました。

野外活動センターアクトパル宇治では、普段できない経験をみんなと一緒にしたり、たくさんおしゃべりや遊びをする中で、子どもたちにいろんな感情が湧き起こったり、考えて発言しているのを目の当たりにしました。

大人も介入しつ、子ども達がひとつの結論に至る過程が尊く思え、大人の中でもある出来事への対応について話し合う過程に、その人自身の価値観や、大切にしたいことが詰まっています、良い時間でした。

お友達と一緒にいるのが嬉しくてなかなか寝付けない子、朝5時から活動を始めると、おんぶに抱っこが好きな子もいて、なかなかタフな2泊3日でしたが、スタッフをやってみて、すごく楽しかったです。

閉会式で、振り返り映像上映と子どもたちの竹とんぼ飛ばしをしました。観ていた方の中には感動して涙を浮かべる方も。子どもたちの笑顔が教えてくれることはたくさんあるなあと、しみじみ思いました。



左京支部 北川わかな

交流会



サマーフォーラム1日目が終わりと、18時30分からホテルグランヴィア京都にて「交流会」が開催されました。

回転テーブルに料理が並べられる形式で、私は日本酒をお供にコース料理を堪能しました。

どの席も初めましての緊張感はなく、私も同席の先輩達と楽しく会話をしました。

途中、豪華賞品？をかけてのクイズ大会があり、各テーブルで「マル」か「バツ」かを相談して決める形式でした。問題は、京都にちなんだものから吉田航氏の靴のサイズまで（笑）デフリンピックに関する問題もありました。

もっとたくさんの地域の人達と交流したかったのですが、あっという間に時間が過ぎてしまいました。

来年は静岡にて、交流会に参加したいと思います。



山科支部夜の部 鈴木翔悟

第 73 回全国ろうあ者大会に参加して

「第 73 回全国ろうあ者大会 in いわて」が盛岡タカヤアリーナで開催されました。テーマは「いわて発！手話で語ろう 笑顔の未来を仲間とともに」。手話で語る理想郷（イーハトーブ）を目指す大会となりました。

式典では、全日本ろうあ連盟の石橋大吾理事長が、旧優生保護法の強制不妊手術の裁判や聴覚支援学校女子児童事故死の裁判に触れ、これからも差別のない共生社会の実現を誓う力強い挨拶をされました。さらに、大会直前に「手話施策推進法」が参議院で全会一致で可決されたという朗報も。名称は「手話言語法」とはなりませんでしたが、社会モデルを基にした画期的な内容で、日本聴力障害新聞の号外が配布され会場が沸きました。

厚生文化賞には京都の高田英一氏が選ばれました。また、大阪のろう弁護士の松本昌行氏や安藤豊喜氏も選ばれました。他の賞（何賞やったか忘れました。汗）では、運転免許取得運動のきっかけにもなった岩手の樋下（といした）光夫氏も受賞。その運動が、今の



制度につながっているとの感慨深いお話もありました。

東京 2025 デフリンピックに向けた全国キャラバンもお披露目され、可愛いラッピング車と共にイベントが各地で展開されるとのこと。なん



とデフリンピックは今年で 100 周年！第 75 回近畿ろうあ者大会 in きょうとでも可愛いラッピング車が来る予定だそうで、楽しみです。



決戦前の京都チーム

で見事優勝！

応援も盛り上がり、大歓声に包まれました。

そしてメインイベントの「わんこそば大会」！ 1 チーム 3 人、全 12 チームが熱戦を繰り広げました。京都チームは府聴協の先鋒の田中さん（23 杯）、次鋒の岡田さん（29 杯）、そして大将の吉田会長（41 杯）の記録



優勝の瞬間（ピンボケ泣）

講演やパフォーマンスに代わるユニークな催しでしたが、地元色が強く、会場全体が一体となって楽しめる素晴らしい企画でした。

次回「第 74 回全国ろうあ大会」は富山にて開催されます。海の幸・山の幸もぜひ堪能してくださいと言っていたので、めっちゃ楽しみにしています。

西京支部火曜日 安政裕之

山科支部「合同研修会」

ふくろうの杜 を訪ねて

去る8月3日（日）猛暑の中、聴障協山科支部（11名）みみずく山科屋の部（16名）夜の部（7名）合わせて34名が神戸長田ふくろうの杜を見学しました。

このふくろうの杜は、1950年JR兵庫駅西の高架下に建てられた神戸ろうあハウスが老朽化のため、JR新長田駅の近くに建て替えられた多機能施設です。デイサービス、B型作業所、生活介護、相談支援などが行われています。一人ぼっちゼロを目指しておられます。

中でも人気はふくろうの杜食堂ですが、私たちが訪問した日曜日はお休みで食べられず残念でした。そしてこの地に建設を許可して下さった近隣住民への恩返しとして、付近の清掃や草花の水やりを続けておられるそうです。



歩いてすぐの所にある阪神淡路大震災復興のモニュメント、鉄人28号を見ながら長田を後にしました。お昼ご飯をハーバーランドにあるレンガ倉庫でスパゲティをお腹いっぱい食べてから『灘昔の酒蔵沢の鶴資料館』に行き、昔の酒造りを学びました。全てが機械化された今でも人の手が必要な工程があるそうです。その後が最後のお楽しみ試飲タイム。みんなお目当てのお酒を飲んだり買ったりして神戸を後にしました。とても盛りだくさんの研修会でした。

歩いてすぐの所にある阪神淡路大震災復興のモニュメント、鉄人28号を見ながら長田を後にしました。お昼ご飯をハーバーランドにあるレンガ倉庫でスパゲティをお腹いっぱい食べてから『灘昔の酒蔵沢の鶴資料館』に行き、昔の酒造りを学びました。全てが機械化された今でも人の手が必要な工程があるそうです。その後が最後のお楽しみ試飲タイム。みんなお目当てのお酒を飲んだり買ったりして神戸

山科支部屋の部 嶋田早紀子

みみずく会の目的

手話を学んで、ろうあ者の良き友となり、すべての人に対する差別や偏見をなくしていくために努力し、その活動を通じて私たち自身も向上していくことを目的とする。

和鏡を作ろう



7月13日(日) ひとまち交流館京都にて、鏡師の山本晃久氏を講師にお迎えし、和鏡作りのワークショップを開催しました。参加者 午前の和鏡作り 37名(内ろう者5名) 午後の交流会 31名(内ろう者4名)と盛況でした。

最初に山本晃久氏の講演があり、和鏡とは何か、その歴史や背景が大事と考えておられ、私たちも手話を学習するうえで、ろう文化の背景を大切にしなければと思いました。

ワークショップは、紙やすりや炭を使って、ひたすら鏡を磨き、皆さん無心で作業されました。

午後からの交流会は、「お見合いトーク」「傘玉入れ」等で、皆さんの笑顔が溢れていました。終了後は、ワークショップ、交流会共に「楽しかった」「良い経験ができた」とのご意見をたくさん頂きました。

中京支部屋の部 山口智賀



参加者の感想

- ・楽しかった。
- ・魔鏡（和鏡）を初めて見られて良かった。
- ・夢中になって磨きました。難しかった。
- ・非常に満足した。このまますたれていくのはもったいない、未来につなげて行って欲しい。
- ・和鏡の歴史を学ばせてもらえた。
- ・手仕事が素晴らしく、誇りに思ってたなさがっているのが流石だと思いました。何かを一筋に極めることの素晴らしさを感じた。「自分を磨いてください」とおっしゃったことが胸に響き、これから実践したい。
- ・世界で一つだけの私の鏡。一生大切にします。楽しかったです。
- ・とても貴重な体験をさせていただき、参加して良かったです。今まで知らなかった世界でした。
- ・丁寧な作業が、そのまま鏡の輝きに！とても良い体験（ワークショップ）でした。



今年度、学習交流部部長になりました中京支部昼の部の前田彩圭です。

運営委員2年目で、何かと消極的な私がこのような役を務めるとは思いもよりませんでした。

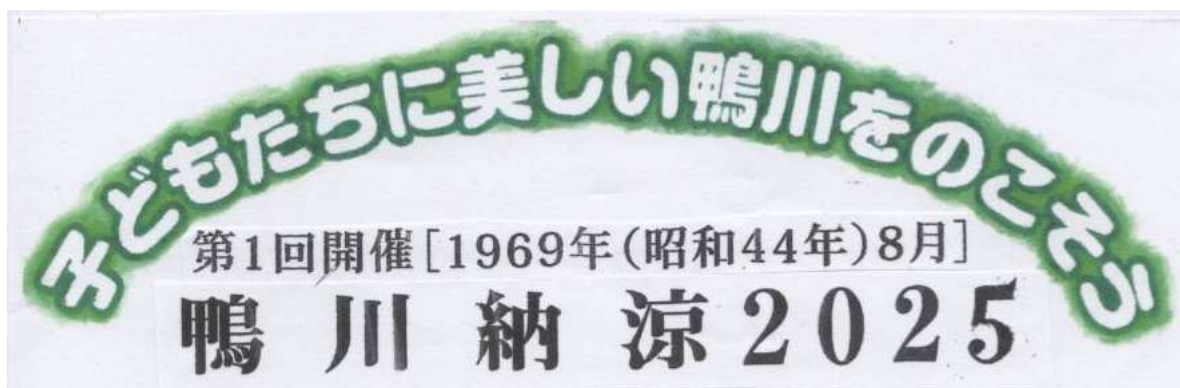
部長となつての初企画として「和鏡作りのワークショップ」。鏡師の山本晃久様にお願ひし、午後はゲームで交流会を行い、また沢山の方にご参加いただき、楽しい時間となりました。

今後も皆さんに楽しんでいただけるような企画をしていきたいと思っています。不慣れで、不手際も多々あるかと思いますが温かい目で見えていただき、ご参加いただければ幸いです。

今年度、どうぞよろしくお願いいたします。



中京支部昼の部 前田彩圭



以前も掲載されていましたが、鴨川納涼とは、川がとても汚れていた時期があり、美しい川を取り戻そうと地域住民が立ち上がり、1964年11月「鴨川を美しくする会」を結成、鴨川納涼は鴨川美化啓発活動の一環として、1969年に始まりました。そのような活動のおかげで、美しい鴨川があります。

今年私、初めて、オープニングセレモニーを見学。

翌日に聴障協との合同研修会で神戸へ行く予定があり、私は早く帰ってきました。



以下は、現地で会った、同じみみずく山科支部の会員さんから聞いた感想です。

- ・ブースの広さが倍になっている！ やはり広さは重要やわ！
- ・広いと目につきやすいわ！ ゆっくり指導もできて休憩の人も後ろで一服できてよかった。

来年以降も広いブースがいただけますように！ 手話体験ブースを見た感じは、教えてる人も教えて貰う人も楽しそうでよかったです。ブース担当の方々、暑い中お疲れさまでした。

山科支部夜の部 西田弘美

行 事 予 定

- 10 月 5 日（日） 近畿ろうあ者大会
10 月 11 日（土） 京都府聴覚言語障害センター開放イベント
10 月 18 日（土） 2025 ほほえみ広場
10 月 18 日（土） いこいの村まつり
11 月 9 日（日） 2025 年度楽しいスポーツ大会
11 月 30 日（日） 手話劇を楽しむ会
12 月 13（土）・14（日） 第 42 回近畿通訳問題研究討論集会
2026 年
2 月 8 日（日） 京都手話フェスティバル
3 月 1 日（日） 耳の日記念集会

編 集 後 記

みみたん通信65号に原稿を寄せてくださった皆様、お忙しい中ありがとうございました。



今回のみみたん通信は
第 58 回全国手話通訳問題研究集会～サマーフォーラム in きょうと～
の特集でした。

私自身も参加し、とても有意義な 3 日間を過ごしました。今回、その 3 日間を
思い出しながら編集しておりました。みみたん通信を通して第 58 回全国手話通訳
問題研究会～サマーフォーラム in きょうと～の空気感を感じていただけると幸
いです。

10 月には近畿ろうあ者大会があり、11 月にはデフリンピックがあります。
色々なイベントがある秋になりますね。食欲の秋・スポーツの秋等、色々なイベント
が多い秋突入となりますが、皆様にとって実りある秋になりますように！

次回のみみたん通信も皆様より楽しいご寄稿をお待ちしております♪
どうぞよろしくお願い致します！

中村清乃